

## 東日本大震災

オーストラリアで  
リスクマネジメントを考える

## 被災者からのメッセージ

体験談を頂いた被災地の方々より、今回の震災を受けて率直なメッセージを頂きました。思いの詰まったメッセージから、一日も早い復興を更に祈念するばかりです。

## 仙台市太白区 36 歳 男性

今回の震災で多くの人が犠牲になり、多くの家屋が津波に流され、そして原発事故の放射能により多くの方々が住み慣れた土地を離れて避難生活を強いられています。職場の知人など身近な人にも亡くなった方がおり、被害の状況を見聞きする度に今回の震災の深刻さを痛感しています。しかし、日本全国から、そして世界に支援の輪が広がっており、被災地では非常に勇気付けられています。このような温かい支援を受けつつ、これから我々は復興に向けて一步一步前に進んで行かなければなりません。被災された人もしなかった人もみんなで力を合わせて困難な道のりを乗り越えていくのです。震災後、避難所の運営にも携わりましたが、水や食糧などの物資は十分なストックが無く、少しずつ配給として配りました。隣の避難所では物資がなくなってしまふなど、避難所によって物資の量にバラつきがあったようです。我欲により食糧や燃料を買い溜めしたり、我先にと物資を奪い合うようなことをしていたら、将来に希望は持てません。皆が少しずつ我慢して分け合って、助け合っていく気持ちを共有することが大切だと感じています。

## 仙台市泉区 38 歳 女性

今まで、便利さに甘えて地球に負担かけたな。原発は神に背く行為とされていることが分かりました。目の前で大切な家族を失った人たちの悲しみは計り知れません。家族全員がそろった状況に感謝しつつ、家族や家を失った人たちのことを考えると涙が止まりません。その人たちに何が出来るか、と考えても今現在、何もできていない自分もどかしくてたまりません。地震だけではなく、今国民が感じている不安な状況が更に不安を募らせ、悲しみを一層深くさせます。前向きになることも必要だけど、被災のひどかった方たちの気持ちを置き去りにしてしまうようで、こういう気持ちで日々過ごしていいかまだ分かりません。これからは、心のケアが本当に必要になってくるでしょう。その時、親を亡くした子や子を亡くした親が少しでも前向きに心が健やかに生きていける何かが必要だと思います。それは、物でもなくやはり人の心や言葉だと思います。友人からの心のこもったメールや電話に何度勇気付けられたか、人とのつながりやあるもので足る生活を心がけて、復興の役に立ちたいと思います。

## 仙台市宮城野区 26 歳 女性

良い面としては、人とのつながりの大切さを強く感じたことです。今回の災害を受けて、たくさんの人が心配してくれました。20 年ほど疎遠になっていた友人が、支援してくれたり、今までほとんど接点のなかった近所の方々や、買い物で初めて会った人とも話し、時には物資の交換を合ったりして、お互いに励まし、助け合いました。ライフラインも、物資も、たくさんの人の知恵と力で成り立っていたことを実感しました。その一方で、人の命のあつけなさ、積み重ねたものが一瞬で消える悲しみ、そして自分の無力さを思い知りました。馴染んでいた場所が消え、車が流されて、建物が倒壊し、瓦礫の山と化する、そんな惨状を見ると、これまでの生活がいかにありがたいものだったのか、生活が維持できるということがどれだけすごいことなのか、と感じました。

## 仙台市太白区 68 歳 男性

想定外の地震と言われており、津波の大きさは納得できるが、原発に関しては人災以外の何物でもない。

## 名取市 26 歳 女性

私が住んでいる名取市内では、津波による大きな被害で、親戚や知人が亡くなったり行方不明になるなど、自分の身近でも大変なことが起こったのだと感じました。今まで当たり前に感じていた生活の一つ一つが本当にありがたく思えて、自分はとても幸せなのだと日々実感しています。今回の震災は、地震そのものだけでなく大規模な津波の被害や、原子力発電所の放射能問題など、問題が山積みです。それらが、世界中に大きな影響を与えています。全ての問題の終息には長い時間と多くの費用を要しますが、必ず復興すると信じるしかないのだと思います。私も復興のために何が必要か、何ができるかを常に考えて行動していかなければなりません。そして今回、国内だけでなく国外からも色々な面で温かい援助の手を差し伸べていただき、とても感謝しています。皆さんの温かい気持ちに私たちもとて勇気付けられました。